

3. 新たに追加する視点

- ・大スローガン「市民幸福度の高い市政」をめざして
「住みたくなるまち 住み続けたいまち 魅力あるまち 柏原」の実現に向け、市民の幸福度が高くなる市政をめざします。

■ 現行計画の3つのスローガンを次のようにバージョンアップ

- 大きなサービス、小さな経費 ⇒ 「有効性」「効果効率」を今以上に“高める”
- 予算は余算、余らせて資産を残す ⇒ 「計画的」から「重点的」「戦略的」へ“変革する”
- 市役所が変われば、市が変わる ⇒ 「市民意見の反映」の指針に「市民意識の把握」を加え「市民の幸福度」を“高める”

「大きなサービス、小さな経費」

■ 『柏原市新行財政計画』との連続性

- 『柏原市新行財政計画』に掲げる「改革の視点」「改革の目標」等、基本的な考え方を継承する。
- 『柏原市新行財政計画』の取り組み項目の内容を総点検し、引き続き取り組むべき項目は、継続していく。

■ 有効性の向上

- 『柏原市新行財政計画』で取り組んだPDCAサイクルの仕組みを有機的に活用し、施策や事務事業のスパイラルアップ、資産や施設の有効活用をめざす。

PDCAサイクル⇒PDCAとは、Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Act(改善)の頭文字をつなげたもので、PDCAサイクルとは、この流れを繰り返すこと。

スパイラルアップ⇒PDCAサイクルを上へ上へと伸ばしていく、つまり螺旋を描くように継続的に改善し、向上させていくこと。

「予算は余算、余らせて資産を残す」

■ 重点的な事務事業の推進

- 10年先、20年先の柏原市を見据え、取り組むべき事業については、重点的に推進する。

■ 戦略的な予算の編成

- 重点的とした事業を推進しつつ収支均衡を図っていくため、緊急性等を勘案しながらメリハリをつけた予算編成を実施する。

「市役所が変われば、市が変わる」

■ 部局の運営方針の進行管理

- 部局の運営方針を基軸とし、重複している進行管理（施策評価や事務事業評価、実施計画や各運営方針）を整え、市民にわかりやすくする。

■ 実践的な事業推進の仕組み

- 市民意識等を把握し、今後の行財政改革の取り組みや、実施計画等へ的確に反映することで、市民の幸福度を高める。